

論文内容の要約

論文名	Clinicopathological Correlations of Autophagy-related Proteins LC3, Beclin 1 and p62 in Gastric Cancer 胃癌におけるオートファジー関連蛋白 LC3、Beclin 1、p62 と臨床病理学的因子との関連性
氏名	増田 剛
<p>【目的】 オートファジーは細胞内の分解機構であり主に飢餓や低酸素により誘導され、生理的な細胞ホメオスターシスに関与している。また、オートファジーはがんの発生や増殖進展にも関与することが報告されている。オートファジーに関与する蛋白として LC3、Beclin1、p62 があるが、癌におけるオートファジーの意義は一定していない。本研究は、オートファジー関連蛋白 LC3、Beclin1、p62 の発現を解析し胃癌におけるオートファジーの臨床病理学的意義を明らかにすることを目的とした。</p> <p>【対象と方法】 胃癌症例(510 例)に関して、免疫組織学的染色により LC-3、Beclin1、p62 の発現を評価し、これら 3 つの蛋白のうち 2 つ以上が陽性の場合をオートファジー陽性と判定し臨床病理学的背景との関連性について検討した。</p> <p>【結果】 LC-3 陽性は 79 例(15.4%)、Beclin1 陽性は 126 例(24.7%)、 p62 陽性は 251 例(49.2%)であった。オートファジー陽性と判定された症例は 113 例(22.1%)であった。オートファジー陽性例は分化型(p=0.006)、リンパ節転移 (p<0.001)、浸潤増殖様式 a/b(p<0.001)、リンパ管侵襲(p<0.001)、脈管侵襲(p<0.001)、肝転移(p=0.004)に有意に高頻度であった。オートファジー陽性群は陰性群と比較すると有意(p<0.001)に 5 年生存率が低かった。また StageI においてオートファジー陽性例が有意に予後不良であった。多変量解析ではオートファジー陽性は有意に予後不良であった。</p> <p>【結論】 LC3、Beclin1、p62 により判定されるオートファジーは胃癌患者の有用な予後因子であることが示唆された。</p>	